

# 地域連携 café ルリアン

門傳 みこ（環境デザイン系4年）

キーワード：場づくり，学生間交流，インキュベート

## 1. 団体概要

地域連携 café ルリアンは、2024年6月に発足した新たな学生団体である（メンバー数は5名）。

活動の目的は、新たな地域連携活動のインキュベートや、地域連携活動に関して学生が望む場を創造することにある。EHCでは、様々な地域連携プロジェクトが展開されているが、メンバー間の交流は乏しく、各プロジェクトが抱える悩み・課題や活動内容も詳しく共有されていなかった。そこで、地域連携活動に興味を抱く学生が気軽に集い、情報共有や互いの活動のサポート、さらには学生が望む企画や新しい連携プロジェクトが生まれるようなきっかけを作っていきたいと考えている。そういった思いから、フランス語で「つながり」を意味する「ルリアン」を団体名とした。

## 2. 活動内容

大きくは、「EHCの開放」と、「学生発案イベントの実施」がある。

「EHCの開放」は、EHCに学生が気軽に集まる習慣を作っていくことを目的としている。具体的には、週1回程度の頻度で、コーヒーや軽食を食べながら交流する機会を作ったり、学生が関心のあるイベントも企画している。例えば、本年度は「かぎ針

編み教室」を開催した。当団体のかぎ針編みができる学生が中心となり、学生にかぎ針編みを教えた。「学生発案イベントの実施」は、「EHCの開放」などですくい上げた学生のニーズ・シーズをもとに、イベントを実施することを意味する。今年度は、大きく3つのイベントをおこなった。

### ① EHC 学生交流会～新たになにに立ち上がった学生団体の歓迎会～

団体の歓迎および活動に関する意見交換を行うため、交流会を開催した（写真1）。ルリアンからはグラタンやアヒージョ、かき氷などを用意した。コロナ以降、他団体との交流が希薄になっていたが、自己紹介ビンゴゲーム等で盛り上がりを見せていた。交流会では、他団体の活動に気軽に参加できるようにしたい、先輩と繋がって履修登録やゼミのことを聞きたい等の意見が聞かれた。

### ② 建築・まちづくりに関心のある学生の相談会

上の交流会で得られた意見から、建築・まちづくりに関心のある学生を対象にゼミ選択や就職活動、研究活動、地域連携活動について、先輩に相談する機会を設けた（写真2）。安枝・太田ゼミの3、4回生に協力していただき、参加者は10名ほどだった。ゼミ配属希望調査を行っている時期だったこともあり、2回生にとって有意義な時間となった。



写真1 EHC 学生交流会



写真2 学生の相談会

### ③地域プレイヤープレゼン大会

学生が地域連携活動に興味を持っても、誰と・どんな活動をすればいい？と悩む学生もいます。そこで、学生と活動を展開していきたいという思いを持つ地域プレイヤーにプレゼンしてもらい、学生とのマッチングを図る機会を設けた（写真3）。具体的には、2つのプレゼンをおこなってもらった。1つ目は、「障害者の新たな仕事づくり・放置竹林問題の解決」というタイトルで田中敬悟氏（認定NPO法人ばれっと）、寄玉晶宏氏（株式会社sydecas）におこなっていただいた。2つ目は、「庭木の地産地消の仕組みづくり・里山の活用」というタイトルで岡田勘三郎氏におこなっていただいた。また、プレゼン終了後には、学生と地域プレイヤーとで軽食をつまみつつ交流を図った（写真4）。

本イベントを通して、活動に興味を持った学生が、実際に活動現場に足を運び、継続して活動に関わっているなど、マッチングが図れた。

### 3. 今後の展望

今年度は活動初年度にも関わらず、様々なイベント企画や人とのつながりを持つことができた。しかし、未だに地域連携 café ルリアンについて知っている学生は少なく、認知度を向上させることが課題となっている。

来年度は当団体の認知度の向上とイベントの集客に力を入れて取り組みたい。さらに学内だけでなく学外にも活動を広げ、学生発のイベントをおこなっていききたい。



写真3 地域プレイヤー大会後のチラシ



写真4 地域プレイヤー大会後の交流会